

喪主あいさつ(喪主が子供の場合)②

皆様には、大変ご多忙中にもかかわらず、またお暑い中を、亡き父・〇〇〇〇の葬儀に、かくも多数ご参列下さいましてまことにありがとうございます。私は、長男の一郎でございます。

父・〇〇は〇〇県〇〇市で〇〇家の長男として大正〇年〇月〇日に生まれました。〇〇商業を卒業後東京に出た後、祖父が創立した現在の〇〇株式会社に入社。昭和三十五年に同社を引き継ぎまして以来、幾度の変転の後今日に至っております。社業がこれまでに発展できましたのも、一重に皆様方のご厚情のおかげと感

謝しております。七十八年悔いのない生涯をおくって、故人も満足し、かつ感謝の念を持ってあの世に旅立ったことと存じます。父になり代わりまして厚くお礼申し上げます。今後は残った母を大切に、家族心を合わせて父の意志を受け継ぎ、社業発展のため身を捧げる覚悟でございます。

亡き父と同様、ご厚誼のほど切にお願い申し上げます。お礼の言葉に代えさせていただきます。

どうもありがとうございました。

喪主あいさつ(喪主が子供の場合)③

本日はお忙しいところ、また遠路にもかかわらず、父・〇〇〇〇の葬儀にお運び下さいまして、まことにありがとうございます。

父生前中はなにかとお世話になり、まことにありがとうございます。また本日は多くの皆様方にお見送りいただき、父もさぞかし喜んでいることと思います。故人になりかわりまして厚くお礼申し上げます。

父は昨年冬に発病いたしまして、約一年間の闘病生活を送りましたが、それもかなわず、一昨日家

族の見守る中息を引き取りました。七十八歳でございました。入院中には皆様方から心強いお励ましやお見舞いを頂き本当にありがとうございました。これからは残された私たち一同、力を合わせて頑張っていく所存でございます。

亡き父同様、残された私ども遺族へも変らぬご厚情を賜りますよう心よりお願い申し上げます。出棺に先立ちまして、一言お礼を申しのべご挨拶に代えさせていただきます。

本日はどうもありがとうございました。

喪主あいさつ(喪主が子供の場合)④

本日はお忙しい中、またお休みにもかかわらず、かくも多数の方々にご会葬たまわり、まことにありがとうございます。

また会社の皆様方や先輩、友人の方々からは心のこもったお別れの挨拶を賜り、故人もさぞかし喜んでいることと存じます。生前中のご好誼に厚くお礼申し上げます。

父は平素病とは無縁で壮健そのものでございました。それだけに心の準備もできておりませず、あきらめきれない思いでございます。しかし、享年七十才は

決して短い生涯ではなかった、と思うことにしました。故人はいつも家庭を大事にしてくれる父でした。それというのも皆様方のような素晴らしい方々に恵まれ、いつもにこやかでいられたからだと思います。

今は、ただただ、一生懸命頑張っていかなばと思えばかりでございます。まだ若輩でありますので、これまでも増してご指導とご鞭撻を賜りますよう、ここにせつにお願い申し上げます。

本日はどうもありがとうございました。